

事業名	プロチームを活用した県民の夢づくり事業 (スポーツ交流推進事業)	事業の目的	4つのプロチーム選手とのふれあい交流や試合観戦を通じて、子どもたちに夢や希望を与えるとともに、「観る」スポーツ文化の定着を図る。	事業期間	平成20年度 ～ 平成26年度
-----	-------------------------------------	-------	--	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
選手(4チーム)による学校訪問	各チーム	小学生	4チームが合同で小学校を訪問し、スポーツ教室などを通じて、子どもたちと交流(11月10日) (宇佐市四日市北小、杵築市護江小・九重町野上小・佐伯市上野小)	決算額		1,600	1,600	1,562
				財源内訳	国庫支出金			
子どもたちによる応援ツアー	各チーム	小学生	訪問校による応援ツアーを実施し、子どもたちが会場でしか味わえない臨場感、感動を体験 (トリニータ12/5、ヒートデビルズ11/29、1/17、ヴァイセアドラー1/16、1/17、パサジィ 11/29、12/13)	一般財源		1,600	1,600	1,562
				職員数(人)		0.30	0.30	0.30
				人件費		3,000	3,000	3,000
				合計		4,600	4,600	4,562

[事業の成果等]

3市、1町の4つの小学校を4つのプロチームが訪問し、ゲームや対話、給食等による交流を通して、多くの児童に夢や希望を与えることができた。県内4つのプロチームの相互連携を図ることができた。事業後もチームと学校(クラス)との交流が続いており、息の長い交流が芽生えつつある。

[成果指標・実績]

(単位：人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(26年度)	評価	備考
成果指標	応援ツアー参加人数	目標値		480	480	360		達成	
		実績値		560	542				
		達成率		116.7%	112.9%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・学校訪問と応援ツアーの実施を4チームに業務委託	8,487円/人	21年度決算額合計 / 応援ツアー参加人数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	4チームに地域密着型スポーツクラブの理念を浸透させるとともに、4チームの共同歩調を推進し、かつ、県内全域に「観るスポーツ文化」の定着を図るため、当面、県がイニシアティブをとることが必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問は、大分市や別府市など試合会場となる地域以外の市町村の学校で実施 ・シーズン中の試合観戦者増につなげるため、なるべく早い時期に事業を実施 ・広報誌等による事業の積極的なPR

事業名	サッカーを中心としたスポーツ環境整備モデル事業 (スポーツ交流推進事業)	事業の目的	県内のスポーツ振興の推進を図るため、県サッカー協会が平成16年度に整備したサッカーグラウンド等(天然芝グラウンドと人工芝グラウンド各1面、クラブハウス1棟)の管理、貸出等に要する経費に対して貸付を実施する。	事業期間	平成16年度 ～ 平成26年度
-----	---	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位:千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)	
サッカーグラウンド及びクラブハウスの運営 ・CDコートの管理、貸出 ・クラブハウスの管理、貸出	(社)大分県サッカー協会	県民等	サッカーグラウンド等を県民等に貸し出したり、各種大会を誘致することで県民がスポーツ(サッカー)に親しむ場を提供 (利用者数) Cコート(人工芝) (約60,000人) Dコート(天然芝)の利用者数 (約8,200人) クラブハウス(会議室)の利用者数 (約2,800人)	決算額	40,000	35,000	30,000	25,000	
				財源内訳	国庫支出金				
					繰入金				
					諸収入	40,000	35,000	30,000	25,000
				一般財源					
				職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30	
				人件費	3,000	3,000	3,000	3,000	
合計	43,000	38,000	33,000	28,000					

[事業の成果等]

県民に日常生活の中でスポーツ(サッカー)を愉しむことのできる環境を提供することで、県民の健康増進及びサッカーを中心とした競技力の向上を図ることができた。

[成果指標・実績]

(単位:人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(26年度)	評価	備考
成果指標	施設利用者数	目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	達成不十分	
		実績値	68,000	60,000	71,000				
		達成率	85.0%	75.0%	88.8%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・できるだけ多くの県民に参加してもらえるよう毎年度事業内容や実施方法を見直し	465円/人	21年度決算額合計 / 施設利用者数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分スポーツ公園の一角に位置するサッカー等の公式試合も開催可能な天然芝グラウンド等の特性を活かし、サッカーを中心としたスポーツイベントなどを開催することで、県民にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた交流やスポーツ文化の振興を図る環境を整えるためには、本事業は県による実施が必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	・23年度は、施設の利用率の向上に向けて、引き続き多くの県民に利用してもらえるような企画や施設のPRを推進

事業名	ワールドカップ開催地スタジアム活用事業 (スポーツ交流推進事業)	事業の目的	サッカーを中心としたスポーツイベントをワールドカップ開催地スタジアムである大分スポーツ公園総合競技場で開催することにより、県民に質の高いスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた交流やスポーツ文化の振興を図る。	事業期間	平成16年度 ～ 平成21年度
-----	-------------------------------------	-------	--	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標				
				決算額	19年度	20年度	21年度	22(予算)
サッカー関連イベントの開催支援 ・キリンチャレンジカップ開催支援 ・大分スポーツ公園サッカーフェスティバル (大分トリニータプレシーズンマッチ) (みんなで楽しむサッカーパーク)	大分スポーツ公園総合競技場活用促進協議会	県民	大分スポーツ公園総合競技場及びその周辺でサッカー関連イベントを実施 (観客数等) キリンチャレンジカップ2010：日本代表対ベネズエラ代表 (約27,000人) 大分トリニータプレシーズンマッチ：大分トリニータ対コンサドーレ札幌 (約7,100人) みんなで楽しむサッカーパーク(ミニサッカー大会等) (約380人)	財源内訳	20,000	11,500	11,500	
				国庫支出金				
				繰入金		11,500	11,500	
				諸収入	20,000			
				一般財源				
				職員数(人)	0.30	0.30	0.30	
人件費	3,000	3,000	3,000					
合計	23,000	14,500	14,500					

[事業の成果等]

大分トリニータプレシーズンマッチや日本代表戦などのスポーツイベントの開催を通じて県民に質の高いスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた交流やスポーツ文化の振興を図ることができた。

[成果指標・実績]

(単位：人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (21年度)	評価	備考
		実績値	46,218	13,038	34,480		34,480		
		達成率	231.1%	65.2%	172.4%		172.4%		

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・同規模の予算でできるだけ多くの県民に参加してもらえよう毎年度事業内容や実施方法を見直し	421円/人	21年度決算額合計 / 観客等数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	県民の財産である大分スポーツ公園総合競技場の特性を活かし、サッカーを中心としたスポーツイベントを開催することで、県民に質の高いスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた交流やスポーツ文化の振興を図るためには、本事業は県による実施が必要である。

[総合評価]

方向性	終了(21年度末)
改善計画等	

事業名	地域生涯スポーツ振興事業	事業の目的	地域住民が会員となり気軽にスポーツ活動に親しめる総合型地域スポーツクラブを県内各地に創設・育成するため、クラブマネージャーや指導者等の人材を育成するほか、活動中のクラブや未育成市町村への巡回指導訪問等を行う。	事業期間	平成18年度 ～ 平成 年度
-----	--------------	-------	--	------	----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)	
総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援 総合型地域スポーツクラブマネージャー養成講習会 スポーツ情報の整備と提供 広域スポーツセンター担当職員の調査・研修	県	クラブ関係者 県民 市町村職員等	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の開催(年3回)	財 源 内 訳	決算額	2,746	2,852	2,557	4,059
			総合型地域スポーツクラブ・市町村巡回指導訪問(年168回)		国庫支出金				
			普及・啓発シンポジウムの開催(県内4カ所)		諸収入				633
			クラブマネージャー養成講習会(受講者：初級101名・上級39名)		一般財源	2,746	2,852	2,557	3,426
			初級委託先：みえスポーツクラブ(豊後大野市)、川添なのはなクラブ(大分市)、童里夢スポーツクラブ(玖珠町)		職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30
			総合型地域スポーツクラブ啓発パンフレットの作成		人件費	3,000	3,000	3,000	3,000
			各種研修会へ参加(3つのセミナーに延べ4名)		合計	5,746	5,852	5,557	7,059

[事業の成果等]

これまで未育成であった日出町及び姫島村が総合型地域スポーツクラブの育成を開始した。これにより、22年度末までに県内の全市町村に総合型クラブが設立される見込みとなった。

[成果指標・実績]

(単位：クラブ)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(年度)	評価	備考
成果指標	総合型地域スポーツクラブの創設数	目標値	33	42	51	61		著しく不十分	国の「スポーツ振興基本計画」における目標(平成22年までに全市町村に一つはクラブを育成)では、全市町村でクラブが育成され、達成率は100%となった。(全国3番目)
		実績値	16	21	26				
		達成率	48.5%	50.0%	51.0%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	<ul style="list-style-type: none"> 20年度からは、クラブマネージャー養成講習会を初級、上級に分割 初級の養成講習会を既存の総合型地域スポーツクラブに委託 	214千円/クラブ創設数	$\frac{21年度決算額合計}{クラブ創設数}$

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	本事業は、平成12年度に策定された国の「スポーツ振興基本計画」の主要な施策の一つとして全国で展開されているものであり、地域住民の自主運営による健康づくり、人づくり、地域づくりが期待できる。本事業を県内全域に広域的に推進するには、県による実施が必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 総合型クラブ未育成の地域(旧市町村単位)で、地域住民や行政関係者を対象に普及・啓発活動を行い、クラブの早期創設を積極的に推進 活動クラブの充実・発展に資するため、クラブ連絡会、スタッフ研修会、クラブ交流大会などを開催し、情報の共有や人材の育成、クラブ間の連携や交流を促進 地域のスポーツドクターと連携して医・科学出前講座を開催し、広域スポーツセンター機能を充実 23年度は総合型地域スポーツクラブの年次別創設目標数を再検討

事業名	チーム大分強化事業	事業の目的	「新潟国体」における大分県選抜選手団の天皇杯順位が一桁台となるように、第63回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」での男女総合優勝・天皇杯獲得に向けて培われた選手強化システムを引き続き活用し、本県競技スポーツのレベルの向上を図る。	事業期間	平成21年度 ～ 平成 年度
-----	-----------	-------	---	------	----------------------

〔事業の実施状況〕

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)	
チーム大分強化事業	大分県競技力向上対策本部	競技団体 県選抜選手 強化スタッフ	各競技団体が開催する県選抜選手の合同練習会や強化合宿、 県外遠征及び優秀指導者・チームの招聘等を支援 対象競技：国体正式40競技	決算額			204,367	132,693	
				財源内訳	国庫支出金				
					繰入金			100,000	41,000
					一般財源			104,367	91,693
					職員数(人)			6.00	6.00
				人件費			60,000	60,000	
合計			264,367	192,693					

〔事業の成果等〕

第64回新潟国体は本県競技力の真価が問われる大分国体後初の大会であったことから天皇杯順位一桁という高い目標を設定した。結果は14位と目標には一步及ばなかったものの、2巡目国体以降最も少ない選手団(選手・監督420人)で、22競技85種目で競技得点を獲得し「チーム大分」の底力を十分全国に示すとともに、県民に感動を与えることができた。また、本県競技スポーツの振興に寄与することができた。

〔成果指標・実績〕

(単位：順位)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (年度)	評価	備考
成果指標	国民体育大会総合成績	目標値			9	13		達成不十分	a：目標値 b：実績値(目標順位の場合を100%とする。) ・目標達成の場合 $[1 + \{(a-b) / (a-1)\}] \times 100$ ・目標不達成の場合 $[1 - \{(b-a) / (47-a)\}] \times 100$
		実績値			14				
		達成率			87.0%				

〔実施方法の効率性〕

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・各競技種別ごとに、重点的な強化事業の実施		効率性を計れないのは、国体順位が他県の得点状況等によって左右されるものであるため。

〔県が実施する必要性〕

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	国体は、冬季・本大会合わせて約6万5千人の選手役員が参加し、都道府県対抗で行われる国内最大のスポーツの祭典である。国体選手は、より上位、出来れば優勝をめざして日々練習に励んでいる。大分県代表として選手を送り出すことから、県が事業実施するべきである。

〔総合評価〕

方向性	見直し(22年度) 効率化の推進
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 「チーム大分プロジェクト」の推進、トップアスリートを育成する指導者の養成・確保、国体等への支援コーチ・帯同ドクター・トレーナーの派遣、拠点チーム(高校・企業)及び優秀選手の強化指定、県選抜チーム(チーム大分)の強化、スポーツ医学によるサポート体制の整備 各競技及び種別の現状や今後の展望等を踏まえ、競技及び種別の重点化や強化事業内容の重点化などを行うなど効果的・効率的な競技力向上対策を推進

事業名	未来のアスリート発掘・育成事業	事業の目的	将来国体やインターハイで活躍できる優秀な選手を育成するため、競技スポーツの底辺拡大を図るとともに、小・中学校に在籍する有望なジュニア選手の早期発掘などを行い、各競技団体等の一貫指導体制のもとで育成強化対策に取り組む。	事業期間	平成21年度 ～ 平成 年度
-----	-----------------	-------	--	------	----------------------

〔事業の実施状況〕

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
チーム大分ジュニア育成強化事業	競技団体	小中学生 指導者	有望選手指定(有力選手が各地に分散:陸上など16競技) クラブ指定(有力選手の所属が特定:フェンシングなど11競技) 練習会、強化合宿、各種大会の参加、優秀指導者の招聘、指定指導者の研修支援等	決算額			15,950	12,741
				財源内訳	国庫支出金			
チーム大分拠点クラブ育成支援事業	競技団体 総合型地域 スポーツクラブ	小中学生	大分国体の会場などを活用したジュニアクラブの設立・運営支援(小中学生の競技拠点が無い競技:カヌーなど14拠点) クラブの設立、指導者の配置、体験教室の開催、用具整備 その他クラブの運営及び選手の発掘育成に関する事業等	一般財源			15,950	12,741
				職員数(人)			0.80	0.80
				人件費			8,000	8,000
				合計			23,950	20,741

〔事業の成果等〕

本県競技力の基盤づくりにつながるのと同時に、ジュニア選手の育成強化を図ることができた。また、スポーツを通じた青少年の健全育成に寄与することができた。

〔成果指標・実績〕

(単位：種目)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (年度)	評価	備考
成果指標	少年の全国大会入賞者数	目標値			101	133		達成	選抜大会・インターハイ・国体での入賞数
		実績値			133				
		達成率			131.7%				

〔実施方法の効率性〕

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている (拡大困難)	・各競技の特性に応じたジュニア選手の育成・強化、ジュニア層に競技人口が少ない競技における活動拠点づくりに協力する団体等に補助を行い、職員の負担を軽減	14千円/指定者数	ジュニア育成強化事業決算額 (12,950千円)/ジュニア選手・ 指導者指定者数(916人)

〔県が実施する必要性〕

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による 実施が必要	優れた素質を有する選手の早期発掘や、全国大会・国際大会で活躍できるアスリートを継続的に輩出するためには、市町村の枠を超えて各関係機関と連携して取り組む必要があり、県による実施が必要である。

〔総合評価〕

方向性	見直し(22年度) 効率化の推進
改善計画等	・次代の「チーム大分」の主力となるアスリートを計画的・継続的に育成強化 ・23年度は実施団体と連携を図りながら効果的な事業の実施に努めるとともに、実施団体が自主的に事業を運営できる体制づくりなどを支援する手法を検討

事業名	大分県スポーツ振興基金事業	事業の目的	本県のスポーツの振興を図るため、「大分県スポーツ振興基金」を活用して、企業や地域における特色あるスポーツ活動の推進や優秀指導者の育成、また、学校体育団体の振興等を目的とした各事業を推進する。	事業期間	平成 7 年度) 平成 年度
-----	---------------	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
選手強化事業	県スポーツ 興基金振運 用委員会	企 業 競技指導者 選 手	一企業一スポーツの推進 (35企業に活動費を助成)	決算額	19,188	19,426	18,431	19,700
			指導者研修会の開催(年1回)	財 源 内 訳	国庫支出金			
競技団体等振興事業	選 手 競 技 団 体 学校体育団体	国際大会参加支援 (35件)	繰入金		19,188	19,426	18,431	19,700
		競技団体振興への助成 (40件)	一般財源					
スポーツ振興啓発事業	優秀指導者	トップコーチ派遣(優秀指導者を海外に派遣) (2件)	職員数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20	
地域スポーツ団体振興事業	郡市体育協会 市 町 村	高体連・中体連・高野連への助成 (17件)	人件費	2,000	2,000	2,000	2,000	
		地域スポーツ団体振興(郡市体育協会への助成) (17件)	合計	21,188	21,426	20,431	21,700	
		総合型地域スポーツクラブサポート(創設育成助成) (5件)						

[事業の成果等]

特色ある企業・地域スポーツ団体への活動助成、指導者の資質向上を目指すスポーツコーチサミットの開催、日本代表選手として国際大会に出場する指導者・選手への支援、県内の優秀指導者に世界トップレベルの研修を受けもらうためのトップコーチ海外派遣事業等の実施により、本県スポーツの競技力向上や地域スポーツの振興を図ることができた。

[成果指標・実績]

(単位：件)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (年度)	評価	備考
活動指標	助成件数	目標値	176	170	166	163		概ね達成	
		実績値	160	167	151				
		達成率	90.9%	98.2%	91.0%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている (拡大困難)	・申請受付業務等を複数の班員に分担させることで、事務負担を軽減	135千円/助成件数	21年度決算額合計 / 助成件数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による 実施が必要	県民のスポーツ振興を図ることを目的に個人、企業、競技団体及び市町村からの寄付と県の拠出金により造成された大分県スポーツ振興基金の運用益等を公平・効果的に活用するためには、市町村やスポーツ関係団体等と連携・協力のもと県が主体となつて実施することが必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・トップコーチ派遣事業について、派遣対象者に中学校指導者を含めるとともに、競技の特性に応じ国内派遣も対象に含めて実施 ・競技指導者の資質向上を一層図るため、スポーツコーチサミットの内容を充実 ・23年度は基金のより効果的な活用のため大分県スポーツ振興基金事業における活用範囲の見直しを検討

事業名	スポーツ大分パワーアップ事業	事業の目的	競技スポーツにおける本県競技力の維持向上を図るため、「新潟国体」等を目標に継続的な選手強化の条件を整備し、重点強化を図ることにより、競技団体の活性化と優秀指導者の一層の資質向上を図る。	事業期間	平成21年度 ～ 平成 年度
-----	----------------	-------	--	------	----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)	
スポーツ大分パワーアップ事業	県体育協会	強化拠点となる学校・企業等 競技団体 選手 競技指導者	特別強化対策 チーム及び選手の強化指定(167チーム、選手13人) 国体代表権獲得が期待される団体等に助成(延べ131団体) ふるさと選手の活用(延べ232人) 優秀選手等体力測定・栄養調査(120人) 一般強化対策(国体前の調整合宿費、特殊競技の用具購入等) 指導者強化対策(活躍が期待される指導者への研修支援)	決算額			110,000	110,000	
				財源内訳	国庫支出金				
					一般財源			110,000	110,000
					職員数(人)			1.20	1.20
					人件費			12,000	12,000
					合計			122,000	122,000

[事業の成果等]

第64回新潟国体は本県競技力の真価が問われる大分国体後初の大会であったことから天皇杯順位一桁という高い目標を設定した。結果は14位と目標には一歩及ばなかったものの、2巡目国体以降最も少ない選手団(選手・監督420人)で、22競技85種目で競技得点を獲得し「チーム大分」の底力を十分全国に示すとともに、県民に感動を与えることができた、また、本県競技スポーツの底辺拡大、指導者の資質向上が図られ本県競技スポーツの振興に寄与することができた。

[成果指標・実績]

(単位：順位)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(年度)	評価	備考
成果指標	国民体育大会総合成績	目標値			9	13		達成不十分	a:目標値 b:実績値(目標順位の場合を100%とする。) ・目標達成の場合 $(1 + \{(a-b)/(a-1)\}) \times 100$ ・目標不達成の場合 $(1 - \{(b-a)/(47-a)\}) \times 100$
		実績値			14				
		達成率			87.0%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・過去の実績と現在の競技力を踏まえたランク付けによる強化の重点化		効率性を計れないのは、国体順位が他県の得点状況等によって左右されるものであるため。

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	国体は、冬季・本大会合わせて約6万5千人の選手役員が参加し、都道府県対抗で行われる国内最大のスポーツの祭典である。その国体選手の養成にあたっては、本県競技スポーツの底辺拡大、指導者の資質向上などが不可欠であり、市町村の枠を超えて各関係機関と連携して取り組む必要があることから、県による実施が必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	・22年度は国民体育大会において天皇杯順位10位台上位を目指すため、特にふるさと選手制度を活用して最強の大分選抜チームを編成する予定

事業名	県民スポーツフェスティバル開催事業	事業の目的	県民が健康増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を送れるよう競技志向の県民を対象にした「大分県民体育大会」を、また、子どもから高齢者、障がいのある方まで幅広い県民を対象にした「県民すこやかスポーツ祭」を開催する。	事業期間	平成 6 年度 ～ 平成 年度
-----	-------------------	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
大分県民体育大会	大分県民体育大会実行委員会	県民	開催日：平成21年9月12日～14日 開催場所：10市2町(56会場) 実施競技：42競技(参加者8,352人)	決算額	12,204	9,409	7,785	9,610
				財源内訳				
県民すこやかスポーツ祭	県	県民	開催日：平成21年5月3日～31日の休日 開催場所：14市3町1村(82会場) 実施種目：28種目(参加者9,841人)	国庫支出金				
				一般財源	12,204	9,409	7,785	9,610
				職員数(人)	1.00	1.00	1.00	1.00
				人件費	10,000	10,000	10,000	10,000
合計			22,204	19,409	17,785	19,610		

[事業の成果等]

大分県民体育大会では、スポーツを通して県民の健康の保持・増進や、地域文化の高揚と活性化が図られた。また、県民すこやかスポーツ祭では、大会運営や地域・世代間交流を通してすこやかで生き生きとした県民生活の向上・生涯スポーツ社会の実現を推進していくための人材や団体の育成が図られた。

[成果指標・実績]

(単位：人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(年度)	評価	備考
成果指標	県民すこやかスポーツ祭の参加者数	目標値	8,593	9,279	9,965			概ね達成	大分県民体育大会は実施要項により参加者数が定まることから指標としない。
		実績値	7,351	8,804	9,841				
		達成率	85.5%	94.9%	98.8%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・種目別大会の企画・運営を県生涯スポーツ協会加盟団体等が実施 ・種目により、参加料(含保険料)を徴収	141円/人	県民すこやかスポーツ祭決算額(1,385千円) / 県民すこやかスポーツ祭参加者数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	県民体育大会は郡市対抗形式で、また、県民すこやかスポーツ祭は県と全市町村の共催により県内全域で実施する本県の最大規模のスポーツイベントであり、地域・世代間交流の促進や健やかで生き生きとした県民生活の向上に資するためには市町村やスポーツ関係団体等と連携・協力のもと県が主体となって実施することが必要である。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツの一層の振興を図るため、22年度から県内6ブロック(県北、別府、県南、豊肥、久大、大分)に分けて持ち回り開催(大分県民体育大会) ・障がい者が参加できる種目の新設や会場数の増加を図るため、他部局等と連携(県民すこやかスポーツ祭) ・種目・会場・参加者数の増加を図るため、種目別大会実施団体を拡大(県民すこやかスポーツ祭) ・広報活動の充実を図るため、各種広報誌やHP等、多様な手段による積極的な情報提供を実施

事業名	大分スポーツ公園整備事業	事業の目的	「健やかで、活力を高める県民総スポーツの振興」を基本理念に、本県独自のスポーツ文化を創造していくための中核施設として、広く県民に親しまれる広域公園を整備する。	事業期間	平成 6 年度) 平成 年度
-----	--------------	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
(単) 大分スポーツ公園整備事業	県	公園施設	投てき場等補修、管理用備品整備	決算額	377,348	104,367	15,977	58,815
				財源内訳				
				国庫支出金	126,850	10,500		58,815
				分負金	34,729	12,884		
				諸収入				
				繰入金	1,000	21,000		
				繰越金	58,328	42,330		
				県債	156,441	17,000		
				一般財源		653	15,977	
				職員数(人)				
				人件費				
				合計	377,348	104,367	15,977	58,815

[事業の成果等]

投てき場の陸上公認を更新し、芝生管理用機械等の管理用備品を充実させることができた。

[成果指標・実績]

(単位：千円)

工 種	全体工事費	実施工事費	整備率	備考	H21年度工事費
総合競技場ウレタン舗装	542,000	542,000	100.0%	H14年度完成	
サブ競技場	438,800	438,800	100.0%	H17年度完成	
投てき場	75,500	75,500	100.0%	H17年度完成	
テニスコート(コート、管理棟、運営棟)	852,700	852,700	100.0%	H18年度完成	
多目的広場、園路・修景施設等	1,041,900	1,041,900	100.0%	H20年度完成	
駐車場	611,700	611,700	100.0%	H20年度完成	
投てき場等補修	10,895	10,895	100.0%	H21年度完成	10,895
管理用備品整備	5,082	5,082	100.0%	H21年度完成	5,082
芝生育成圃場、大型送風機	58,815	0	0.0%		
全 体	3,637,392	3,578,577	98.4%		15,977